

かがやき

令和6年 10月 3日 (木)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 9

十代の中盤に向けて、

成長の荒波と中学校という「場」

9月18日に小学校と中学校の連携授業として中学校体験がありました。聖ヶ丘中学校で体験授業や部活見学が行われ、参加した6年生は多くの刺激を受ける時間となりました。見学では特別支援教室 OB、OG の姿もあり、「あ、～先生！お久しぶりです！」と声を掛けてくれる生徒もいました。体験授業を受ける小学生と、案内や説明をしてくれる中学生の姿を見て時に感慨深く、時に「中学校生活」という生活時間の濃さについて改めて考えさせられる時間でした。

体験授業は教科に分かれての実施でした。「中学校仕様」の一斉指示で授業が展開されていきます。教室の雰囲気もシンプルで、大きな椅子と机に、どの子供も少し気持ちが「ピシッ」となっていたように感じました。環境が変わるとはまさにこういうことで、そこに小学校との差を感じた子供も多かったのではないかと思います。

部活見学は、各教室を代表の中学生が順番に案内してくれました。運動系の部活の準備は、それぞれ中学生が自発的に行っており、声を掛け合って展開されていきます。文化系の部活では、みんなで息を合わせたの演奏に取り組む姿や高度なイラストに取り組む姿、観察の成果を説明する姿等があり、こちらも中学生仕様の活動レベルに6年生が良い刺激をもらっていました。また同時に、今回の見学で躍動する中学生の姿に「中学生ってこうなるんだよ」という見えないパワーを強く感じました。ただ、このレベルの中学生生活の濃さを日々続けていくには、すごいエネルギーが必要になるんだろうなあと大人目線で見えてくる一抹の「心配」も感じました。十代の中盤に向けて、子供たちの体と心は、日々大混乱の中で成長していきます。この心と体の状態にプラスして、目の前の課題はやはりたくさんあるんだろうなあと想像します。中学校生活の1日をザクッと並べてみると以下のような流れであると思います。

・9教科50分授業×6(1日平均)+部活(放課後)+習い事(人によって)+定期考査対策(自学習での対策が基本)+土日部活(場合によって)+複雑化する(良くも悪くも)対人関係+よくわからないイライラ(時々)

1日の拘束時間はだいたい、午前7時半～午後18時30分くらいで、週5日間(部活が入ると6～7日)の集団生活パフォーマンスになるでしょうか。「学校生活」として漠然と捉えると、自然にこなすことを当たり前と感じてしまうこともあります。中学校生活を元気にこなしていくことは、少し客観的な考え方によっては子供たち(周囲の大人ももちろんですが)の奇跡と努力の繰り返しによるところが大きいかもしれないとも感じました。

今回、十代の多感な時期を「全力少年・少女」して駆け抜けて成長している子供たちのキラキラする一面を見させてもらいました。そこにはかつて支援教室を利用していたOB・OG達の成長した頼もしい姿もありました。この光景に改めて子供の成長ってすごいなあと感じつつ、日常に目を戻せば、苦労しながら悩みながら「今」を駆け抜けている子供もいるのだらうとここでも想像します。成長の荒波の中、「無理しないでね」「健康に気を付けてね」「時には休んでね」そんなエールも送りたくなった中学校体験の時間でした。

中学生って、すごい!

